

## 【参考資料】

### 1 森林の有する多面的機能

森林は木材、木質バイオマス燃料、紙等の木を利用することで得られる恵みや災害の防止、水の提供といった生活を守る恵みなど、様々な恩恵をもたらしてくれますが、これを維持していくために森林を適切に整備・管理していく必要があります。新潟県では、森林整備及び保全に関する基本の方針として次の8つの機能と基本的事項を定め、各機能のうち重視する機能を高度に発揮させるよう望ましい森林の状態を目指した適切な森林施業を実施することとしています。

機能の区分	主な働き	望ましい森林の状態
①水源かん養機能	土壌への降水や融雪水の浸透を促進することなどにより、 <u>ピーク流量</u> を低減して洪水を調節するとともに渇水を緩和する働き	<u>下層植生</u> とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄えるすき間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有している
②土砂災害防止・土壌保全機能	自然現象等による土砂災害の発生を防止する働き	下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達した土壌を保持している
③快適環境形成機能	自然現象等による飛砂、潮害等を防止するとともに、風や騒音などの調節、大気の浄化など、快適な生活環境を保全・形成する働き	樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮へい能力や汚染物質の吸着能力等が高く、諸被害に対する抵抗性が高い
④保健・レクリエーション機能	森林とのふれあいを通じて、憩いや学びの場を提供する働き	多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している
⑤文化機能	森林の景観等を通じて、歴史、文化、学術等の振興に寄与する働き	史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を有している
⑥生物多様性保全機能	森林生態系を構成する多様な生物の生育・生息の場を提供する働きで、全ての森林が有する	多様な生物が生育・生息できる、安定した森林生態系が形成されている
⑦地球環境保全機能	二酸化炭素の固定、 <u>蒸散作用</u> 等が保たれることにより発揮される働きで、全て	県域を超えた広範囲にわたる森林の働きにより、気象・気候等の良好な環境が維持され

	の森林が有しており、特定の地域のみで発揮されるものでない	ている
⑧木材等生産機能	薪・木炭などのバイオマスエネルギーや木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する働き	林木の生育に適した土壌を有し、木材等として利用するうえで良好な樹木により構成され、成長量が比較的高い

## 2 用語

### 【あ】

- うっ閉

隣り合う立木の枝葉が触れ合って、日光が直接地面まで届かなくなるような状態になること。

- 枝打ち

節のない木材の生産、下層植生の成長促進、病虫害の防止や雪害の防止を目的に、樹木下部の不要な枝を切り落とす作業。

- FSC

森林認証制度のひとつ。F S C森林認証は、国際的な非営利団体である森林管理協議会が、環境的に適性で、社会的な利益にかない、経済的にも継続可能な方法で管理された森林を認証する制度。

### 【か】

- カーボン・オフセット

人間の活動で発生した二酸化炭素などの地球温暖化の原因となるガスを、森林整備などでその分を吸収し、相殺させること。

- 下層植生

林床に生える下草のこと。

- 間伐

林冠がうっ閉し、立木間の競争が生じ始めた森林において、主に目的樹種の一部を伐採する方法。

- 強度間伐

通常の間伐は20～30%程度で実施するが、40%以上の割合で行う間伐。

- 高性能林業機械

従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担軽減等、性能が著しく高い林業機械（プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダなど）。

- 公社（農林公社）

民有林の造林を推進するために県・市町村・林業関係者等が出資者となって設立した法人で、土地所有者と分収契約を結び造林（育林）を行うことを主な事業としている。

- 公団（旧森林開発公団：現独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター）

森林資源、農業資源の保全及び利用を図ることが必要な地域を対象とし、水源林造成及びこれと一体とした農用地整備を行い、農林業の進行及び森林・農用地の公益的機能の発揮を目的にした特殊法人。公団造林とは、保安林を対象として当公団が造林者となって行う分収造林である。

- 公有林

地方公共団体又はその一部に属する森林で都道府県有林、市町村有林、財産区有林がある。

- 国有林

国が森林所有者である森林及び部分林（国有地に国以外の者が造林した分収林）である森林。

- 混交林

性質の異なった２種類以上の樹種（針葉樹と広葉樹など）が混じって生育する森林。

### 【さ】

- COC

森林認証制度のひとつ。COC森林認証は、認証森林の林産物を材料とした製品が、森林から消費者に届くまでの過程のこと（製造・加工・流通といったすべての流れを含む）で、認証された森林から伐りだされた製品と、認証されてない森林からの製品が、流通過程のいかなる時点でも混ざり合っていないことを管理・保証するもの。

認証森林から生産される木材を製品として販売するには流通にかかわるすべての組織が認証を取得する必要がある。

- 私有林

私的な所有林で国有林、公有林以外の総称。社寺、会社、財団、社団、組合、共有、個人などがある。

- 蒸散作用

植物が根から吸った水分を葉から水蒸気として大気中に発散すること。

- 森林認証

適正に管理された森林から産出した木材などに認証マークを付けることによって、持続可能な森林の利用と保護を図ろうとする制度。

- 資源賦存量

理論的に導きだされた総量。資源を利用するにあたっての制約などは考慮に入れないため、一般にその資源の利用可能量を上回ることになる。

- 主伐

利用できる時期（伐期）に達した立木を伐採すること。

- 人工林

おもに木材の生産目的で人の手で育てられている森林。日本の人工林のほとんどはスギ、ヒノキ、カラマツなどの比較的成長が速く、建築資材等に利用できる針葉樹林となっている。

- 森林施業プランナー

地域森林管理経営の中心的役割を担う者：路網設計・間伐方法等の森林施業方針、施業の事業収支を示した施業提案書の作成を行い、森林所有者との合意形成、コスト分析、木

材販売等を担う。

#### 【た】

##### • 地理情報システム

地理情報システム（GIS：Geographic Information System）は、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術である。

##### • 提案型集約化施業

効率的に路網を整備するためには、小規模な林地を面的に取りまとめる必要があり、森林所有者へ路網整備を含めた「提案」を行い、林地を「集約化」する地域森林管理の実現方法。

##### • 天然林

主として自然の力によって成り立った森林。周囲の樹木から運ばれてきた種子が発芽・成長して森林が形成・維持されているため、一般的には多様な種類や年輪が入り混じっている。また、天然林は人の手が入っていないということではなく、経済的な価値のある樹木を育てるために伐採や苗木の植栽などの人の手が入っても、成立の過程が主として自然の力によるものである場合は天然林という。

#### 【は】

##### • 分収林契約

森林所有者、造林、保育実施者、費用負担者の3者または2者で契約を結び、伐採時にその収益を分け合う契約。

##### • ピーク流量

ひとつの洪水の最大流量。洪水時に、河川の適当な場所で流量を計測するか、あるいは洪水の痕跡を調査し、その最高水位より推定して得られる。

##### • 複層林

樹齢や樹高の異なる樹木で構成され、樹冠の部分が何層にも分かれている林。

#### 【ま】

##### • 緑の少年団

小中学生を対象として、自然と親しみ、緑を守り、緑の分権改革を育てる愛護の思想を啓発し、自ら社会を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とする団体。

##### • 民有林

国有林以外の森林。

##### • 木質バイオマス

バイオマス（動植物から生まれた再生可能な有機資源。森林資源では間伐材などの木くずなどがある。）のうち、樹木に由来するバイオマス。木質バイオマスには、建築用材や加工用木材、紙パルプ、薪や炭などの現在利用されているもののほか、林地残材、製材工場から発生する端材、剪定枝、流木、住宅解体材等の未利用の木質バイオマスもある。

#### 【ら】

##### • 路網

素材を搬出するために、林内で作業するために作る作業道。

## 【素材】

- A材、B材、C材、D材

木材を品質（主に曲がりなどの形状）や用途によって分類する際の通称。基本的に、A材は製材、B材は集成材や合板、C材はチップや木質ボードに用いられる。D材は搬出されない林地残材などをいい、木質バイオマスエネルギーの燃料などとして利用することが期待されている。

## 魚沼市森林・林業再生方針

---

平成 26 年 3 月

発 行：魚沼市  
お問い合わせ先：企画政策課企画政策室  
TEL：025-792-1425（直通）  
FAX：025-793-1026